

ピヤシリ山での遭難防止を タケノコ採りでの事故多発に対応！

タケノコ採りでにぎわうピヤシリ山での遭難事故が毎年のように起きていることから、市は「名寄市遭難事故対策に関する実施要綱」をつくりました。遭難事故が発生した場合の搜索救助対策を強化することと同時に、事故の発生そのものを防ぐ抑止効果の発揮が目的です。

死亡事故も発生

ピヤシリ山にタケノコ採りに行って遭難した事故は、平成7年、8年、15年、18年、19年に発生しており、平成8年の場合は死亡事故につながっています。こうした遭難事故においては、警察、消防署・団、自衛隊、市役所が連携をとって搜索救助活動を行っています。

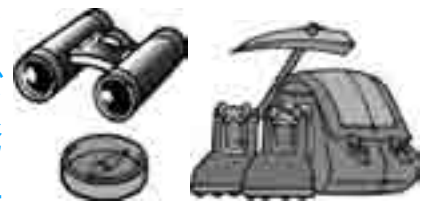
名寄市の場合、地元駐屯地の自衛隊員が100人規模で出動しており、このことが昨年の場合も危険な状態にあった事故者の発見・救出に結びつきました。今回の遭難事故対策に関する実施要綱では、これまでの搜索救助活動の経験などを踏まえて、関係機関・団体等の連携をいっそう強化するなどの遭難事故対策に関する整備を行いました。



多額の搜索費用が発生

あわせて、当事者に搜索救助費用の一部負担を請求する制度を実施要綱に盛り込みました。ピヤシリ山での搜索救助活動には、搜索隊員の人件費は別にし、食事（弁当）代や虫除けスプレー、軍手などの消耗品費、自動車両の燃料費などがかかります。

このほか、実際には搜索ヘリコプター（昨年場合は、道の消防ヘリ・道警ヘリ、自衛隊ヘリの計5機出動）の出動経費が発生します。その金額は、民間の救助ヘリを1時間飛ばすと100万円はかかるとされていますので、昨年の場合だと、札幌や旭川からの往復飛行時間を含めて全体で10時間を超えるヘリコプター稼働があったことから、1000万円以上の経費がかかった計算になります。



搜索救助費用について 当事者負担の導入も

人件費やヘリコプター運行などの経費については当事者が負担する対象とはなりませんので、すべて公費で負担することになります。実施要綱では、食事代や消耗品費のほか山岳会や狩猟会にボランティア出動を依頼した場合の謝礼などに要した費用について、実費相当額の請求を当事者に対して行うことにしています。

市は、ピヤシリ山などで遭難事故が発生した場合の搜索救助活動について関係機関・団体と連携して万全の対策を講じることにしていますが、遭難事故が起きないことが第一です。

今年も山菜採りのシーズンがやってきますが、山に入る際は、行き先や帰る時刻を必ず家族などに知らせる
単独での入山は避ける
携帯電話などの通信手段やラジオ、非常食、懐中電灯などを携行する
などの事故防止策を怠らないことが大事です。